

市民が主役の市政を実現する会ニュース

- 発行：市民が主役の市政を実現する会 ●発行日：2024年6月5日
- 代表：桜井 美德 ●お問い合わせ：090-6473-3172(三田 登)
- ホームページ <https://yachiyo-syuyaku.net> QRコードからアクセス➡



～八千代医療センターの常勤医・看護師不足問題～

早期解決を求める第2次署名活動にご協力をお願いします!!

改善しない医師・看護師不足。もはや地域の中核病院ではない!

2004年に八千代市は東京女子医大を誘致して八千代医療センターを設立。市はこれまで実に100億円以上の補助金を拠出しており、現在も年間で約8000万円の救急医療事業の補助を行っています。それは設立時に診療科や人員について市と協定を締結しており病院がそれを遵守することが前提となっています。

しかし、3年前から呼吸器内科、血液内科、糖尿病・内分泌代謝内科、リウマチ・膠原病内科、皮膚科の5科は新規患者の受け入れが休止されてきました。ここにきて皮膚科と糖尿病・内分泌代謝内科が一部増員されつつも従来の診療体制には程遠い状態が続いています。さらには、ここにきて麻酔科の常勤医の大半が退職しました。これでは十分な体制で外科手術ができません。この状況は明らかに協定違反です。

八千代医療センターにおける職員数等の増減

| 時点 | 常勤医 | 登録医 | 看護師 |
|---------|-----|-----|-----|
| H31.4.1 | 210 | 165 | 491 |
| R2.4.1 | 224 | 188 | 511 |
| R3.4.1 | 206 | 210 | 485 |
| R4.4.1 | 173 | 241 | 441 |
| R5.4.1 | 173 | 205 | 440 |
| R6.4.1 | 166 | 258 | 445 |

(人)

別表にあるように常勤医は令和2年以降58人も減少し、その分を登録医(臨時雇用の医師)で凌ぐという診療実態が明らかになっています。

また、看護師も同様に66人も減少しています。これだけ見ても、従来の診療体制に大きな支障があることは明らかです。もはや、当初の位置づけである地域の中核病院としての体を成していないのが実情です。

減少する一方の患者数。迫る医療崩壊と経営危機!

医療センターの実態は別表にも表れています。延べ外来患者数は令和元年と比較して、90,913人も減少しています。また、救急搬送患者数も1289人減少。さらには80%以上でないと採算が取れない平均病床稼働率も令和5年から下がり続け50%を切る寸前です。令和2年以降は国からのコロナ関連補助金を除くと赤字決算が続いています。まさに医療崩壊と経営危機が迫っています。

八千代医療センターにおける患者数と稼働率の増減

| 年度 | 延べ外来患者数 | 救急搬送患者数 | 平均病床稼働率 |
|--------|----------|---------|---------|
| 平成29年度 | 261,348人 | 5,594人 | 80.6% |
| 平成30年度 | 273,744人 | 5,627人 | 82.2% |
| 令和元年度 | 279,331人 | 5,489人 | 82.3% |
| 令和2年度 | 246,498人 | 4,328人 | 70.4% |
| 令和3年度 | 222,470人 | 4,308人 | 61.8% |
| 令和4年度 | 202,684人 | 4,484人 | 56.9% |
| 令和5年度 | 188,418人 | 4,200人 | 50.4% |

裏面へ

特別背任容疑で女子医大理事長に家宅捜査!

医療センターは「本院を通して募集しているが応募がない」ことを理由にあげていますが、大学病院に応募がないのは理由があります。本院の岩本絹子理事長のワンマン・営利主義が原因です。理事長は近年、大幅リストラや徹底した人件費などのコストカットを進め、全職員対象にボーナスゼロを通告。看護師や医師などが一斉に退職の意向を表明したことが大きくマスコミ報道されました。結論から言えば、責任は平成元年から理事長に就任した岩本絹子氏にあります。女子医大の職員

には厳しいコストカットや強権支配を行い、その結果、慢性的な人員不足や経営不振に喘いでいる一方で、3月29日、本院の岩本絹子理事長に特別背任容疑で女子医大理事長に家宅捜査が行われました。また、1年前には「岩本絹子理事長が億単位のカネを不正に流用した」として、卒業生らから刑事告発されています。これらが事実とすれば、このまま理事長の椅子に座らせるわけにはいきませんし、市としても黙認することは許されません。

市民の声で問題解決を! 第2次署名活動にご協力をお願いします!

地域医療の要である医療センターはもはや、その任務を果たせないまでに機能不全に向かっています。そして、何より一番の被害者は患者であり市民です。問題の解決のためには女子医大理事長がワンマン・営利主義の経営方針を改めて、患者第一の理念に基づき、職員側との民主的な病院運営を推進するように八千代市は責任をもって問題解決に動く責務があります。市民の声で腰の重い市(市長)を動かしましょう。そのための第2次署名活動にご協力をお願いします。

----- 切 り 取 り 線 -----

八千代医療センターの常勤医・看護師不足問題の早期解決を求める署名

八千代市長 服部友則 様

呼びかけ団体 市民が主役の市政を実現する会
代表 桜井 美徳

八千代市米本1998

1. 八千代医療センターの長期にわたる内科系診療科の新規患者受け入れ中止を全面解決し、本来の診療体制にするために、とりわけ服部市長がリーダーシップを発揮して、東京女子医大岩本理事長とトップ交渉して早期に常勤医師、看護師の人員補充など、問題解決をはかること。
2. 市と医療センターとの唯一の協議体である「八千代医療センター運営協議会」が、議長である医療センター院長が運営支配していることは協議会本来の趣旨に反している。対等の立場で議題設定や協議をする本来の協議会にすべく規程の見直しを行うこと。

| 氏 名 | 住 所 |
|-----|-----|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

◆お願い◆ 署名は連絡いただければ受け取りにお伺いいたします。または下記までご郵送いただければ幸いです。
●お問い合わせ:090-6473-3172(三田) ●郵送先:〒276-0045 八千代市大和田165-52 三田 登